生徒主体とは何か？　～「生徒の気づきと学び」を最大化するPJ第19回（2020/8/19）

対話テーマ：生徒主体とは何か？

新学習指導要領に向けて取り組む中で
「生徒主体」という言葉を目にする機会が増えてきました。
今回は、この生徒主体をキーワードにして、
全国から約70名の教員と全国の先生と高校生で対話しました。

「生徒主体とは何か？生徒がやりたいことをやることか？」
「なぜ、教えすぎる先生、何もしない先生の両極端になるのか？」
「生徒主体を実現するために、生徒や教員に求められる心構えとは？」

これらの問いをもとに、気づきの多い対話が行われました。

→

今回のキーワード

学びは、生徒と先生の共同作品

先生の学んで欲しいことと、生徒の学びたいことのすり合わせが重要。
良い学びのイメージをすり合わせることで、生徒も主体的に学べる。
生徒も、学びは与えてもらえるものという認識を無くすこととが大切。

先生の試行錯誤を開示する

学びは先生と生徒で創るものだからこそ、どんな授業を目指しているか、
どこに悩んでいるのかを開示してよいのではないか。

生徒自身が「どうしたいか」を考える機会を数多く設ける

自分はこうしたい、が主体性を生む。どうしたいかを考える機会を、
学校の中にたくさん作っていくとよいのではないか。

- 先生の声 -

・「生徒と一緒に学びを作る」というマインドが重要だと感じた。（東京）
・試行錯誤している様子を生徒に見せてよいのだと安心した。より良い学びを作りたい想いを生徒に伝えていきたい。（東京）
・教員側がこうなって欲しいという生徒像を描き、生徒がそれに応える。これは生徒主体だろうか？（東京）
・生徒に自由に取り組んでもらい、期待する到達点に届いたら好きにしてもらう。生徒が到達しなければ教える。目的と手段を間違えたくない。（奈良）
・生徒が自分が動ける場をたくさん作ることで変化が起きる。地域連携やフィールドワークはまさにそうした機会を作りやすいと考える。（岡山）

- 生徒の声 -

・生徒だけでは生徒主体にはできない。生徒だけでは学校行事も実現できなかった。大人の支援があって、生徒が主体的に動けるように感じた。（岡山）
・生徒が目指すところに対して、さらに高みに引き上げてくれる先生の存在はすごく大事。（東京）
・先生が生徒を主体的にしようと思うのも大事だが、「生徒自身がどうなりたいか」がより重要ではないか。（北海道）
・探究活動の時間で主体的な学習ができると聞く。一方で、学習する時間も場所も先生が決めているのに主体的といえるのか。（東京）
・主体性というと大きそうだが、例えば先生に質問するという行動も主体性と思った。そんな小さな主体性も認めてほしい。（神奈川）

「生徒の気づきと学び」を最大化するPJアーカイブはこちらから：https://berd.benesse.jp/publicity/

©「生徒の気づきと学び」を最大化するプロジェクト